

5. 授業及び論文関係

(1) 文学研究科の授業、研究指導及び学修方法に関する申合せ事項

昭和 51 年 12 月 9 日教授会決定

平成 16 年 3 月 22 日改正

令和 3 年 12 月 16 日改正

- (1) 各学生について、指導教授のほかに、研究科を担当する本学の教員のうちから、指導教員若干名を定める。
(2) 当該専修の教授が欠員又は事故のある場合は、研究科会議の議を経て、指導教員の 1 名が指導教授の任務を代行することがある。
- 学生は、学修及び研究の指導を受けるために、履修及び研究の計画を定め、所定の期日までにこれを提出しなければならない。
- 修士課程の学生に必要な 30 単位のうち、各専修に属する必修科目の単位は、別表に掲げるとおりとし、その他の単位は、自由選択とすることができる。必修単位を超える単位は、自由選択の単位数に含まれる。
自由選択科目は、本研究科の開講科目、所定の国際高等教育院が開講する大学院共通科目及び学生交流の単位互換等により取得し本研究科が認定した科目である（単位互換・入学前の既修得単位は、それぞれ 10 単位を上限とする）。
- 博士後期課程の学生は、研究指導を受けて、毎学年、演習などを履修し、学年末に研究報告書を提出しなければならない。

大学院修士課程単位表

	必修		自由選択	合計	備考
	特殊講義	演習			
国語学国文学専修	12		18	30	
中国語学中国文学専修	8	8	14	30	
中国哲学史専修	16		14	30	
インド古典学専修	16		14	30	
仏教学専修	8	8	14	30	
西洋古典学専修	12		18	30	
スラブ語学スラブ文学専修	12		18	30	令和 6 年度以前入学者
	16		14	30	令和 7 年度以降入学者
ドイツ語学ドイツ文学専修	16		14	30	

	必修		自由選択	合計	備考
	特殊講義	演習			
英語学英米文学専修	8	12	10	30	令和5年度以前入学者
	8	8	14	30	令和6年度以降入学者
フランス語学フランス文学専修	8	8	14	30	
イタリア語学イタリア文学専修	8	8	14	30	
哲学専修	8	12 ※1	10	30	
西洋哲学史（古代・中世・近世）専修	16		14	30	
日本哲学史専修	16		14	30	
倫理学専修	16		14	30	
宗教学専修	16		14	30	
キリスト教専修	16		14	30	
美学美術史学専修	4	8	18	30	
日本史学専修	12		18	30	
東洋史学専修	12		18	30	
西南アジア史学専修	12		18	30	
西洋史学専修	12		18	30	
考古学専修	12		18	30	
心理学専修	8	8	14	30	
言語学専修	8	12	10	30	
社会学専修	8	12	10	30	
地理学専修	8	8	14	30	
科学哲学科学史専修	8	8	14	30	
メディア文化学専修	8	8	14	30	
現代史学専修	8	8	14	30	
京都大学・ハイデルベルク大学 国際連携文化越境専攻	26		4	30	※2

※1 哲学専修の平成30年度以降入学者については、必修科目の「演習」は同専修の「演習Ⅰ」を指す。

※2 京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境専攻の「自由選択科目」に含まれるのは、1セメスターについて2単位まで、修士課程在学中の上限は4単位までとする。（指導教員の了解を得て履修可能な国際高等教育院が開講する全学共通科目の日本語科目2単位を含む。）

(2) 履 修 登 録 に つ い て

●文学研究科科目を履修する場合（KULASIS での履修登録）

文学研究科科目を履修するには、KULASIS での履修登録が必要となる。履修登録をしていない授業科目は、受講し試験（筆記、レポート等）を受けても単位認定がされないので、必ず期間内に KULASIS に登録すること。

	前 期 (前期科目・通年科目・修士論文)	後 期 (後期科目)
履修登録ページ公開日	4 月 2 日 (木)	9 月 15 日 (火)
履修登録期間	4 月 17 日 (金)～4 月 20 日 (月)	10 月 13 日 (火)・10 月 14 日 (水)
履修登録確認・修正期間	4 月 23 日 (木)・4 月 24 日 (金)	10 月 17 日 (土)～10 月 20 日 (火)
履修登録確定日	4 月 28 日 (火)	10 月 22 日 (木)
履修登録確認表開示期間	4 月 28 日 (火)～5 月 5 日 (火)	10 月 22 日 (木)～10 月 29 日 (木)

●文学部科目を履修する場合（KULASIS での履修登録）

KULASIS で行う。詳細は掲示に注意すること。ただし、学部科目の単位は、修了に必要な単位として認められない。

●他研究科科目を履修する場合（他研究科聴講願等での履修登録）

各研究科で履修登録方法が異なるため、掲示に注意すること。ただし、他研究科科目の単位は、修了に必要な単位として認められない。

●全学共通科目を履修する場合（KULASIS での履修登録）

「全学共通科目履修登録について」の掲示に注意すること。ただし、全学共通科目の単位は、修了に必要な単位として認められない。

●大学院共通科目群、大学院横断教育科目群の科目を履修する場合（KULASIS での履修登録）

KULASIS で行う。ただし、修了に必要な単位として認められない科目もあるので注意すること。

●履修取消制度

文学研究科が開講する科目は、すべて履修取消対象外となっているので注意すること。

●修士論文の履修登録

今年度中に修士論文を提出する予定がある場合は、前期の履修登録期間中に KULASIS で登録すること。

(3) 試験・成績について

成績評価基準

文学研究科専門科目における成績評価は100点満点とし、評価基準は60点以上を合格、60点未満は不合格とする。また評語は以下のとおりとする。

【平成30年度・平成31年度（2019年度）入学者】

90点以上を「A+」、80点～89点を「A」、70点～79点を「B」、61点～69点を「C」、60点を「D」、59点以下を「F」とする。

【令和2年度以降入学者】

96点以上を「A+」、85点～95点を「A」、75点～84点を「B」、65点～74点を「C」、60点～64点を「D」、59点以下を「F」とする。

評語	区分	適用基準
A+	合格基準に達している。	到達目標を達成し、傑出した成績である。／Outstanding
A		到達目標を達成し、特に優れた成績である。／Excellent
B		到達目標を達成し、優れた成績である。／Good
C		到達目標を達成し、良好な成績である。／Fair
D		到達目標を達成したことが認められる。／Marginal
F	合格基準に達していない。	到達目標を達成したことが認められない。／Fail

試験における不正行為の取扱いについて

受験に際し自己または他人のために不正行為をした者の当該期の科目及び当該年度の通年科目の成績は、すべて無効とする。

生成AIの使用について

授業やレポート等の課題における生成AIの使用可否や使用条件は、必ず担当教員の指示に従うこと。また、下記に留意すること。

(1) 大学における学修は学生が主体的に学習することが本質であり、生成AIの出力をそのまま用いるなど学生自身の手によらずレポートなどの課題を作成することは学びの深化に繋がらないため、原則として認めない。また、生成AIの出力に著作物の内容がそのまま含まれていた場合、意図せずとも剽窃に当たり不正行為となる可能性がある。

(2) 生成AIの出力には不正確な情報が含まれていたり、実際には存在しない情報源が参照されていたりする場合がある。

(3) 個人情報等が意図せず流出・漏洩する可能性があるため、個人情報等を安易に生成AIに入力するのは避けること。

(4) 担当教員が生成AIの使用を許可している場合、担当教員の指示にしたがって適切な使用法で用いること、および指定されたデータの提出などがあればそれを履行すること。

成績の異議申立について

当該期の成績について、次の場合に限り異議を申し立てることができる。

- ① 採点の誤記入等，明らかに担当教員の誤りと思われるもの
- ② シラバス等により周知している成績評価の方法等から，明らかに疑義があるもの

（申立の方法等）

成績開示初日から1週間以内※に，成績表を添えて教務掛窓口へ申し出ること。申立期間を過ぎたものは受け付けない。なお，担当教員に直接異議を申し出ることはいできない。

申し立て内容については，文学研究科・文学部において確認し，上記の①又は②に該当しないと判断された場合，対象外とする。

おって，措置内容については，申し立てから原則として2週間以内に通知する。

※詳細な日程は，KULASIS 及び掲示にて周知。

(4) 修士論文の提出について

今年度の大学院修士課程修了希望者は、下記により論文題目届及び論文を提出すること。

なお、前年度に論文題目届及び論文を提出した後、修了を延期した者も今年度改めて論文題目届・論文とも提出すること。

記

論文題目	提出期間：文学部・文学研究科行事予定表のとおり 下記 URL にアクセスのうえ、必要事項を入力し、当該年度の「行事予定表」の提出日までにアップロードすること。論文題目は原則として WEB 上で入力し、指導教員の確認を受け作成すること。操作には KULASIS に掲載のマニュアルを参考すること。 【URL】 https://kar.gakusei.kyoto-u.ac.jp/portal/login/
研究公正について	修士論文を提出する者は、研究公正に関する対面型のチュートリアルを受けなければならない。チュートリアルは原則として指導教員がおこなうものとする。なお、研究公正に関する知識定着のため、対面型のチュートリアルの受講に加えて日本学術振興会「研究倫理eラーニングコース」を受講すること。対面型のチュートリアルとeラーニングコースを受講後は、「研究公正チュートリアル実施確認書」とeラーニングの「修了証書」を論文題目の提出期間終了までに教務掛に提出すること。また、提出方法は教務掛が KULASIS で案内するものとする。
論文	提出期間：文学部・文学研究科行事予定表のとおり 論文の表紙には必要事項を記入した表紙ラベルを貼付し、教務掛へ提出すること。
注意事項	論文題目届・論文とも締め切り後は受理しない。
書式	論文は原則として日本語とする。 但し、1. 英語学英米文学，フランス語学フランス文学専修学生はそれぞれの言語で書くものとする。（平成 29 年度以前のドイツ語学ドイツ文学専修入学者は、ドイツ語で書くものとする。） 2. その他の専修の学生も専修によって認められた場合には、日本語以外の言語で書いてもよい。
用紙枚数	和文の場合 400 字詰原稿用紙に換算して、 文献文化学専攻 50 枚以内 思想文化学専攻 100 枚以内 歴史文化学専攻 100 枚以内 行動文化学専攻 100 枚以内 現代文化学専攻 100 枚以内 但し、中国哲学史，インド古典学，仏教学の各専修は 100 枚以内とする。 なお、歴史文化学専攻学生は別に 400 字詰原稿用紙 5 枚分に相当する論文要旨を本文の前に綴じ込むこと。 欧文の場合 A 4 判用紙に 1 ページ 25 行程度で 50 ページ以内とする。 なお、「外国語」で書いた論文には必ず和文の要旨を添付すること。
その他	1. 修士論文には黒表紙をつけ仮製本して提出すること。 論文の提出期限は厳守し、提出後の誤字・脱字の訂正，プリントアウトの欠損などがないように十分な点検をおこなうこと。 <u>パソコン使用の場合，ハードディスクや USB の異常，または機器の故障を理由とした提出延期や不完全な形での提出は認めない。</u> 2. 黒表紙を開いた一枚目に、必要事項を記入した「研究公正に関する宣誓書」を綴じ込むこと。用紙は KULASIS に掲載する。 <u>宣誓書がない論文は受理しない。</u> 3. 論文題目届提出後は原則として題目の変更は認めない。止むを得ず変更する場合は、教務掛交付の「修士論文題目変更届」（所定用紙）に指導教員の検印を得て教務掛へ届け出ること。提出された論文題目は、学位記データに使用される。 4. 論文題目届を提出した者は修了予定者として扱う。その後、事情により留年することになった者は、必ず教務掛交付の「論文提出取止届」に指導教員の検印を受けて提出すること。 5. <u>修士論文は口頭試問の前に限り撤回することができる。</u> 6. 修士論文は返却しない。審査終了後、本研究科で製本し文学研究科図書館で保管し、閲覧に供する。従って各自「写し」をとっておくことが望ましい。

修士課程国際連携文化越境専攻にかかる分は、専攻 HP も参照すること

(<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/jdts/kb/overview/>)

(5) 京都大学大学院文学研究科課程博士論文提出の手続

【平成31年度（2019年度）以前入学者】

(全体の流れ)

博士後期1年次	4月	「研究計画書」を提出，希望する指導教員3名を届け出る。
	3月	「論文作成計画書」および「研究報告書」を提出し，第1年次研究指導認定を受ける。
博士後期2年次	4月	研究題目・学修および研究計画届を提出。
	3月	「研究報告書」を提出し，第2年次研究指導認定を受ける。
博士後期3年次	4月	研究題目・学修および研究計画届を提出。
	7月	「資格申請書」を提出，承認されれば「博士論文提出資格」を得る。
	12月	「課程博士論文」を提出。
	1月	「研究報告書」を提出。

※提出日は、当該年度の「行事予定表」を参照すること。

(説明)

1. 研究計画書

博士後期課程全体を通じての研究主題・修士論文までの研究実績との関連性・研究の具体的計画を年度をおったかたちで400字詰原稿用紙5枚程度の分量にまとめて説明し，第1年次の4月に提出する。また希望する指導教員3名を選んで申請する。指導教員は「研究計画書」を通覧し，必要に応じて，指導教員の選定を含めた補足・変更を求め，主任指導教員1名を選ぶ。

2. 博士論文指導

博士論文指導の時間を定期的に設けるので，必ず出席すること。

3. 研究公正チュートリアル

「課程博士」を申請する者は，研究公正に関する対面型のチュートリアルを受けなければならない。チュートリアルは原則として指導教員がおこなうものとする。

なお，研究公正に関する知識定着のため，対面型のチュートリアルの受講に加えて日本学術振興会「研究倫理eラーニングコース」を受講すること。

対面型のチュートリアルとeラーニングコースを受講後は，「研究公正チュートリアル実施確認書」とeラーニングの「修了証書」を遅くとも課程博士論文資格申請までに教務掛に提出すること。提出方法は教務掛がKULASISで案内するものとする。

また，本研究科修士課程出身者については，修士課程在籍時に対面型のチュートリアルとeラーニングコースを受講していれば，あらためて受講する必要は無い。（ただし，「研究公正チュートリアル実施確認書」とeラーニングの「修了証書」はあらためて提出するものとする。）

4. 論文作成計画書

第1年次の3月に、

- (1) 論文の主題
- (2) 現在までの研究状況
- (3) 今後の進展の見通し
- (4) 自己の研究の国内外における位置づけ

以上につき、400字詰原稿用紙で10枚程度の分量にまとめて提出する。執筆にあたっては実際にどのような論文を書こうとしているのか、どのように研究をすすめるのか、その研究によりどのような点が明らかにされるのかが具体的にわかるよう、明晰に記述しなくてはならない。

指導教員は、計画書の内容について検討し、不備と認めた場合に補足・変更を求める。

提出後にやむを得ず主題変更・修正をおこなう必要が出てきた際は、ただちに主任指導教員に届け、承認を得ること。

5. 各年次研究報告書

- (1) 当初の研究計画および論文作成計画に沿った、独立の研究論文としての実質をそなえたものを、第1・2年次末に提出する。論文1本に相当するものを基準にする。審査を経て学会誌に掲載された論文の抜刷などでもかまわない。
- (2) 指導教員は、(1)の研究報告書の内容が不備と認めた場合には翌年度6月末までに書き直しを求め、改めて研究指導認定をおこなう。
- (3) 1年次または2年次に研究報告書未提出などの理由により研究指導認定を受けることができなかった者は、翌年度以降に所定の研究報告書を提出し、各年次の研究指導認定を受けなければならない。なおその際、複数年次の研究報告書を同一年度に提出することはできない。
- (4) 3年次については次のように扱う

- ・在学中に課程博士論文を完成し、提出した者は学位論文提出の際に作成した「論文要旨」を研究報告として提出すること。
- ・在学中に学位論文を提出せずに研究指導認定を受ける者は、(1)に準じて研究報告を作成し、提出すること。なお、研究指導認定を受けた者は当該年度末に研究指導認定退学することになるので、「研究指導認定退学願」を提出すること。

3年次で研究報告を提出する期間は1, 2年次とは異なるので、行事予定表を確認のうえ遺漏のないように提出すること。

6. 資格申請書

上記でいう第1年次および第2年次に相当する2回の研究指導認定を受けた者は、第2年次研究指導認定を受けた翌年度以降(第3年次)の7月に、以下の内容を含む「資格申請書」を提出する(分量・体裁・内容については専修ごとの基準により、課程博士論文を実際に完成できるか否か判断できるだけの内容をそなえたものとする)。その際、以下の各項目は必ず含んでいなければならない。

- (1) 論文の進行状況と今後の作業の見通し
- (2) 論文全体の章・節および見出しを含む詳細な目次
- (3) 各章・節の内容についての要旨

本申請書提出後、指導委員会(指導教員3名に、必要があれば他の教員を加える)による審査をおこない、承認されれば「博士論文提出資格」を与える。「博士論文提出資格」の有効期限は博士後期課程在学中および研究指導認定退学後3年間である。

「資格申請書」が審査の結果不承認となったとき、あるいは一旦提出し承認を受けた後で論文構想に変更が生じたときには、次回の提出時期に再度承認を求めるものとする。

「資格申請書」の最終提出期限は博士後期課程退学以前の定められた時期（行事予定表に明示）とする。提出されないまま退学した場合、以後の課程博士論文の提出資格は認めない。

7. 論文

第3年次の12月に、「博士学位論文出願手続について」等（文学研究科ホームページに掲載）を参照し、誤りのないよう提出すること。

第3年次の課程博士論文の提出期限は、「博士論文提出資格」を有する最終年度12月上旬（行事予定表および掲示で周知）の定められた時期とし、博士学位論文には自署した「研究公正に関する宣誓書」を1ページ目に綴じなければならない。

なお、「博士論文提出資格」を有した後、研究指導認定退学した者は、退学後3年以内に提出すれば課程博士となる。

8. 博士後期課程第3年次において論文を完成できない場合

(a) 第3年次7月に「資格申請書」を完成・提出できなかった場合。

(b) 同年次12月に論文を提出できなかった場合。

いずれの場合も、その旨をただちに主任指導教員に届け出るものとする。

上記(a)の場合、「資格申請書」提出の機会は、同年12月（行事予定表に明示）に与えられる。

9. 留学計画

博士後期課程の途中で留学するときには、どの大学院の博士課程（ないしそれに相当する水準の教育研究機関）においてどの教員の指導を受けるか、また研究進捗状況と留学の関連につき指導教員と協議し、助言・承認を得るものとする。

留学を終了し帰国する際には、留学期間における研究状況について、留学先の指導教員による説明書（ないしそれに代るもの）をたずさえることが望ましい。

10. 審査手続き等

研究報告書提出時、資格申請時及び論文提出時には在学していること（休学期間中は研究報告書提出、資格申請、論文提出を認めない。）

【令和2年度以降入学者】

(全体の流れ)

博士後期1年次	4月	「研究題目」「研究計画届」を提出，希望する指導教員3名を届け出る。
	10月	「論文作成計画書」を提出する。
	3月	「第1回研究報告書」を提出し，第1年次研究指導認定を受ける。
博士後期2年次	4月	研究題目・学修および研究計画届を提出する。
	3月	「第2回研究報告書」を提出し，第2年次研究指導認定を受ける。
博士後期3年次	4月	研究題目・学修および研究計画届を提出する。
	7月	「資格申請書」を提出，承認されれば「博士論文提出資格」を得る。
	12月	「課程博士論文」を提出する。
	1月	「第3回研究報告書」を提出する。

※提出日は、当該年度の「行事予定表」を参照すること。

(説明)

1. 研究計画届

第1年次4月の研究計画届は，博士後期課程全体を通じての研究主題と構想をA4用紙1枚程度の分量にまとめて説明する。また希望する指導教員3名を選んで申請する。指導教員は「研究計画届」を通覧し，必要に応じて，指導教員の選定を含めた補足・変更を求め，主任指導教員1名を選び，主任指導教員は指導計画を作成する。

第2年次以降の研究計画届は，専修の指導に基づき作成する。

2. 博士論文指導

博士論文指導の時間を定期的に設けるので，必ず出席すること。

3. 研究公正チュートリアル

「課程博士」を申請する者は，研究公正に関する対面型のチュートリアルを受けなければならない。チュートリアルは原則として指導教員がおこなうものとする。

なお，研究公正に関する知識定着のため，対面型のチュートリアルの受講に加えて日本学術振興会「研究倫理eラーニングコース」を受講すること。

対面型のチュートリアルとeラーニングコースを受講後は，「研究公正チュートリアル実施確認書」とeラーニングの「修了証書」を遅くとも課程博士論文資格申請までに教務掛に提出すること。提出方法は教務掛がKULASISで案内するものとする。

また，本研究科修士課程出身者については，修士課程在籍時に対面型のチュートリアルとeラーニングコースを受講していれば，あらためて受講する必要は無い。(ただし，「研究公正チュートリアル実施確認書」とeラーニングの「修了証書」はあらためて提出するものとする。)

4. 論文作成計画書

第1年次の10月に、

- (1) 論文の主題
- (2) 現在までの研究状況
- (3) 研究の具体的年次計画及びその見通し
- (4) 自己の研究の国内外における位置づけ

以上につき、日本語の場合は4000～6000字程度の分量にまとめて提出する。日本語以外の言語の場合は、指導教員の指示に従うこと。執筆にあたっては実際にどのような論文を書こうとしているのか、どのように研究をすすめるのか、その研究によりどのような点が明らかにされるのかが具体的にわかるよう、明晰に記述しなくてはならない。

指導教員は、計画書の内容について検討し、不備と認めた場合に補足・変更を求める。

提出後にやむを得ず主題変更・修正をおこなう必要が出てきた際は、ただちに主任指導教員に届け、承認を得ること。

5. 各年次研究報告書

- (1) 当初の研究計画および論文作成計画に沿った、独立の研究論文としての実質をそなえたものを、第1・2年次末に提出する。論文1本に相当するものを基準にする。審査を経て学会誌に掲載された論文の抜刷などでもかまわない。
- (2) 指導教員は、(1)の研究報告書の内容が不備と認めた場合には翌年度6月末までに書き直しを求め、改めて研究指導認定をおこなう。
- (3) 1年次または2年次に研究報告書未提出などの理由により研究指導認定を受けることができなかった者は、翌年度以降に所定の研究報告書を提出し、各年次の研究指導認定を受けなければならない。なおその際、複数年次の研究報告書を同一年度に提出することはできない。
- (4) 3年次については次のように取り扱う

- ・在学中に課程博士論文を完成し、提出した者は学位論文提出の際に作成した「論文要旨」を研究報告として提出すること。
- ・在学中に学位論文を提出せずに研究指導認定を受ける者は、(1)に準じて研究報告を作成し、提出すること。なお、研究指導認定を受けた者は当該年度末に研究指導認定退学することになるので、「研究指導認定退学願」を提出すること。

3年次で研究報告を提出する期間は1, 2年次とは異なるので、行事予定表を確認のうえ遺漏のないように提出すること。

6. 資格申請書

上記でいう第1年次および第2年次に相当する2回の研究指導認定を受けた者は、第2年次研究指導認定を受けた翌年度以降（第3年次）の7月に、以下の内容を含む「資格申請書」を提出する（分量・体裁・内容については専修ごとの基準により、課程博士論文を実際に完成できるか否か判断できるだけの内容をそなえたものとする）。その際、以下の各項目は必ず含んでいなければならない。

- (1) 論文の進行状況と今後の作業の見通し
- (2) 論文全体の章・節および見出しを含む詳細な目次
- (3) 各章・節の内容についての要旨

本申請書提出後、指導委員会（指導教員3名に、必要があれば他の教員を加える）による審査をおこない、承認されれば「博士論文提出資格」を与える。「博士論文提出資格」の有効期限は博士後期課程在学中および研究指導認定退学後3年間である。

「資格申請書」が審査の結果不承認となったとき、あるいは一旦提出し承認を受けた後で論文構想に変更が生じたときには、次回の提出時期に再度承認を求めるものとする。

「資格申請書」の最終提出期限は博士後期課程退学以前の定められた時期（行事予定表に明示）とする。提出されないまま退学した場合、以後の課程博士論文の提出資格は認めない。

7. 論文

第3年次の12月に、「博士学位論文出願手続について」等(文学研究科ホームページに掲載)を参照し、誤りのないよう提出すること。

第3年次の課程博士論文の提出期限は、「博士論文提出資格」を有する最終年度12月上旬（行事予定表および掲示で周知）の定められた時期とし、博士学位論文には自署した「研究公正に関する宣誓書」を1ページ目に綴じなければならない。

なお、「博士論文提出資格」を有した後、研究指導認定退学した者は、退学後3年以内に提出すれば課程博士となる。

8. 博士後期課程第3年次において論文を完成できない場合

(a) 第3年次7月に「資格申請書」を完成・提出できなかった場合。

(b) 同年次12月に論文を提出できなかった場合。

いずれの場合も、その旨をただちに主任指導教員に届け出るものとする。

上記(a)の場合、「資格申請書」提出の機会は、同年12月(行事予定表に明示)に与えられる。

9. 留学計画

博士後期課程の途中で留学するときには、どの大学院の博士課程（ないしそれに相当する水準の教育研究機関）においてどの教員の指導を受けるか、また研究進捗状況と留学の関連につき指導教員と協議し、助言・承認を得るものとする。

留学を終了し帰国する際には、留学期間における研究状況について、留学先の指導教員による説明書（ないしそれに代るもの）をたずさえることが望ましい。

10. 審査手続き等

研究報告書提出時、資格申請時及び論文提出時には在学していること(休学期間中は研究報告書提出、資格申請、論文提出を認めない。)



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



UNIVERSITÄT
HEIDELBERG
ZUKUNFT
SEIT 1386

Kyoto University and Heidelberg University Joint Degree Master of Arts Program in Transcultural Studies

Description of Modules

Publication Date:

30 March 2018

Based on the

Joint Degree Agreement between

Kyoto University (Japan) and Heidelberg University (Germany),
signed on 11 January 2017

and referring to the

Terms and Regulations of Examination for the Master in Transcultural Studies (Heidelberg),
published on 6 July 2016

Study form: full-time / consecutive

Regular period of study: four semesters / two years

www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/jdts | transcultural.uni-hd.de

Contents

Preamble	2
Qualification Goals and Fields of Occupation	2
Study Focus	3
Overall Structure and Course Requirements	5
Consultation	6
Abbreviations, Terms, Workload	6
Kyoto University Model Curriculum	8
Master's Thesis	10
Description of Modules	11
Introduction to Transcultural Studies	11
Skills and Methods for Transcultural Studies (I & II)	12
Focus 1 – Foundations (I & II)	13
Focus 2 – Advanced Studies	14
Research 1	15
Research 2	17
Research 3	19
Master's Thesis	21
Oral Examination (KU)	22
Grades and Grade Conversion.....	23

Preamble

Based on their mission statements and core principles, Kyoto University (KU) and Heidelberg University (HDU) provide comprehensive academic education through disciplinary, interdisciplinary, and practical study programs that qualify students for their later professional careers.

The following competency profile is incorporated into the module descriptions of all disciplines. Furthermore, it is implemented in the specific goals of qualification, the curricula, and the modules of the individual study programs:

- Develop disciplinary competences with a distinctive research orientation;
- Develop competence in transdisciplinary dialogues;
- Develop competence in practice-oriented problem-solving;
- Develop personal and social competences;
- Promote willingness to assume social responsibility on the basis of the competences acquired.

Qualification Goals and Fields of Occupation

Building on the theoretical and methodological knowledge of their BA studies, graduates of the Joint Degree Master of Arts in Transcultural Studies (JDTS) have expanded their knowledge using transcultural and transdisciplinary approaches. Within the selected study focus they have learned to identify research material in the broad field of transcultural exchange processes between Asia and Europe, to develop innovative research questions, to locate them in the academic state of the art, and to analyze and respond to them in academic English. Graduates are thus able to independently choose and apply an adequate set of theories and methods from a variety of disciplines according to the specific research material and questions at hand.

Drawing on examples of cultural, social, political, and regional entanglements in and between Asia and Europe graduates are experienced in locating complex problems that the world is facing in the 21st century. They have been sensitized to look deeper into the contexts, processes and historical perspectives in these entanglements, and are thus able to critically reflect on their challenges in a global context and to suggest ways of looking at and coping with them.

In selective methodology and/or language courses, graduates have expanded their knowledge of theories and methods from their BA degrees and have learned to transfer it to new contexts. Their in-depth disciplinary expertise and competences serve as the basis for their newly acquired, transcultural approach. Graduates are thus capable of undertaking ambitious, innovative research agendas which transcend traditional disciplinary constraints. In the course of their master studies, graduates have deepened their skills in oral, written, and other forms of argumentation and presentation in the international environments of the Kyoto University Graduate School of Letters (GSL) and the Heidelberg Centre for Transcultural Studies (HCTS). They have expanded their competences in analytical research and have acquired skills in collecting various sets of data from all kinds of media (books, manuscripts, film, and other audio-visual media) and analyzing them critically, ethically and creatively. This is particularly relevant in a world oversaturated with diverse

media that shape knowledge, transfer of knowledge and concepts of (past/present/future) reality. As the research tools developed by the Digital Humanities Unit of Heidelberg University, the Heidelberg Research Architecture, are directly employed in a number of research-based modules of the program, graduates hone particular competences in the use of state-of-the-art tools and methods of visualizing knowledge or an argument, and are able to apply these skills in future contexts of research and/or employment.

The high degree of internationality at the partner institutions, Kyoto and Heidelberg, as well as in the JDTS presupposes an equally high degree of interaction among the students and between students and teacher. This is further fostered by various forms of collaborative work implemented in the modules. Graduates are thus skilled in working collaboratively in and with international teams of experts in their field and other stake-holders.

In line with the above qualification goals, graduates are prepared for future employment in research institutions worldwide with interdisciplinary and transregional emphases, for higher positions in the educational sector and the media, in publishing houses, museums, and archives, in think tanks and in cultural management, human resources, and PR departments of international organizations and the corporate world.

Study Focus

Within the broad repertoire of transregional and interdisciplinary courses offered in the JDTS, each student is required to select one of three study foci after the first term. The selection will be facilitated by individual consultations with the advisor in the respective study focus and/or members of the divisions and chairs involved.

The study focus will indicate and further deepen the student's main disciplinary and research-based methodological and theoretical competences. It will allow for a more specific orientation to match the student's educational background, personal interests, and career goals.

Three study foci are offered, all representing the disciplinary and conceptual pillars on which the Transcultural Studies program rests. They are: "Knowledge, Belief and Religion" (KBR), "Society, Economy and Governance" (SEG), and "Visual, Media and Material Cultures" (VMC).

Knowledge, Belief and Religion (KBR)

This focus offers insight into the dynamic histories, circulations and practices of knowledge, beliefs and religion. It highlights relations between, and entanglements of, political and ideological, social and cultural, linguistic, and artistic aspects in and between Asia and Europe. Of particular interest are disciplines such as philosophy, history and art history, religious studies and philology, and anthropology. This focus emphasizes students' engagement with a variety of resources and sources, from archival, to textual to visual and material matter. In combination with a unique interest in social and institutional agents, the study focus offers new approaches to the exploration of fields such as religious movements and worldviews, the migration of ideas and concepts (e.g., democracy, enlightenment), the rise or decline of intellectual cosmopolitan elites or the institutionalization of knowledge in educational contexts.

Study content (selection):

- Aesthetics and language of Sanskrit
- Bioethics

- Itineraries of global health practices
- Philosophical encounters between Asia and Europe
- Philosophy of science and engineering

Society, Economy and Governance (SEG)

This focus explores issues of Society, Economy and Governance from an explicitly transcultural, anthropological, and historical perspective. There is much interest in the deep and complex histories of globalization and transregional connectivities. Key themes here are the social, political, and cultural dimensions of market dynamics and networks, the shaping and governance of social systems (e.g., civil society), consumer cultures, transregional migration, demographic change, global governance, and urbanization processes.

Study content (selection):

- Concepts and methods of migration studies
- Development and agriculture studies
- Gender and sexuality in Asia
- Japanese pop-culture and media practices
- Migration of political ideas

Visual, Media and Material Cultures (VMC)

This focus investigates the production, proliferation, and reception of images and objects as well as their collection, display, and reconfiguration with a view to the human agency involved. A transcultural perspective calls for recovering the ways in which experiences and processes of mobility and braidedness are constitutive for the actors and visual regimes involved in these processes. Transculturality also addresses the enmeshing of visual technologies, institutional practices, placemaking, and im/mobility in ways that cut across bipolar asymmetries. Of relevance is the role of diverse agencies, both local and trans-regional, in the negotiation of power and the production of knowledge. This can range from archival, artistic, and exhibition practice to architecture and urban planning to film and advertising. Interdisciplinary conversations and research-based projects help reach into literary, linguistic, musical, performative or ritual dimensions of creative cultures, whose meanings can be more fully apprehended through a range of experiences centering on the social agents, spaces, and sensoriums.

Study content (selection):

- Ancient history and material culture
- Art, film and digital media in East Asia
- Literary discourses and modernity in Asia
- Theatrical practices in Japan

Overall Structure and Course Requirements

The two-year, full-time, major-only international Joint Degree Master of Arts in Transcultural Studies requires a total of 30 Credit Points (CP)/120 Credit Points (ECTS) to be accumulated over four semesters. Modules in the first year are designed to expand the students' theoretical and methodological knowledge and to transfer it to new, transcultural contexts. The third semester continues with advanced, research-based courses, fieldwork or a research internship. During this time students are expected to define the topic of their master's thesis and to identify a suitable supervisor. The final semester is dedicated to writing the thesis, accompanied by a research colloquium. The final oral examination may be taken either in the third or the fourth semester, depending on completion of the required modules and the home institution of the student, Kyoto or Heidelberg.

Students with Kyoto as their home institution spend their second and third semester at the partner in Heidelberg. Students with Heidelberg as their home institution study a complete year in Germany before going to Japan for their second year.

Requirements to receive full or partial credits for courses are defined by the teachers and are given in the course descriptions published on "KULASIS" (see <https://www.k.kyoto-u.ac.jp>) and the "LSF" for each semester (see <http://lsf.uni-heidelberg.de>). All courses require active student participation, including the preparation of course material and continuous, independent reading of secondary literature. This particularly applies to seminars, which make up the majority of courses.

Typical forms of examination include oral presentations (15–30 min), brief reflection papers (1–3 pp), longer course papers (15–20 pp), written examinations (1,5 h), visual essays, and research/excursion/internship reports.

Students should be prepared to write two longer course papers (or equivalent) per term on average. They can obtain reduced credits for courses only where specifically outlined in the module description.

Some modules allow the transfer of courses (course import) from other divisions at the Graduate School of Letters at Kyoto University or partner institutes at Heidelberg University. To ensure that the chosen classes will fit the student's study focus, the student must consult with the respective focus advisor in advance.

 Kyoto University [KU] HOME	1st		2nd	
	Spring	Fall	Spring	Fall
	GSL	HCTS	HCTS	GSL
 Heidelberg University [HDU] HOME	1st		2nd	
	Fall	Spring	Fall	Spring
	HCTS	HCTS	GSL	GSL

Program Structure

Consultation

We aim to provide our students with excellent guidance throughout the JD Master in Transcultural Studies and beyond. Consultation is divided between the program coordinator(s), the examination officer(s), and the academic focus advisors. Students should address all general questions regarding the program to the respective program coordinator, who will assist students or refer them to the focus advisors or professors. For all issues related to the overall examination regulations and the accreditation of courses, students should consult the examination officer in Heidelberg or the Student Affairs division in Kyoto. Inquiries regarding the academic content of courses, the study focus, or options for mobility and research should be addressed to the respective academic focus advisor. For planning the master's thesis students should contact the respective professors. Finally, details of specific courses are best clarified directly with the course teacher.

We strongly advise students to consult with the program coordinator and/or the academic focus advisors to finalize their choice of study focus after the first semester, and to plan their time at the partner.

Students should familiarize themselves with the regulations and structure of the program as well as with the consultation hours of the above-mentioned persons and should make appointments where necessary. All relevant documents, contact details and office hours are up to date on the website of the JDTS: www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/jdts. Students should also include a brief note on what they wish to clarify during the appointment.

Abbreviations, Terms, Workload

Abbreviation	Explanation	Applies to
AT	Attendance Time, given in minutes	KU
CC	A compulsory <i>course (status)</i> .	KU
CP	<i>Credit Points</i>	HDU/KU
CM	Compulsory <i>Module</i>	HDU
CTP	Contact Time (attendance) & Preparation	HDU
EC	An elective or optional <i>course (status)</i> .	KU
ECTS	European Credit Transfer and Accumulation System	HDU
EM	Elective <i>Module</i>	HDU
GSL	Graduate School of Letters	KU
HCTS	Heidelberg Centre for Transcultural Studies	HDU
KBR	Knowledge, Belief and Religion, a <i>Study Focus</i>	HDU/KU
Loc	Location (Kyoto or Heidelberg)	HDU/KU
OE	Oral Examination/Presentation	HDU/KU
REM	Required Elective <i>Module</i>	HDU
SEG	Society, Economy and Governance, a <i>Study Focus</i>	HDU/KU
Sem.	Semester (6-month period)	HDU/KU

SEU	Standards for Establishment of Universities	KU
Sta	(Course) <i>status</i>	KU
SWS	“Semesterwochenstunde,” 1 SWS equals 90 minutes	HDU
VMC	Visual, Media and Material Culture, a <i>Study Focus</i>	HDU/KU
WE	Written Exam/Report/Research Paper	HDU/KU

Term	Explanation	Applies to
Course (Status)	Courses are divided into two different kinds, or statuses: 1) compulsory (students have to take this particular course), and 2) elective (or, optional; students may choose from a list of courses). This hierarchy functions similar to the statuses of <i>modules</i> .	KU
Credit Points	Each credit point stands for a certain amount of workload and is awarded to a student upon completing a course or module. HDU follows the system of <i>ECTS credits</i> , and KU the system of <i>SEU credits</i> .	HDU/KU
ECTS credits	One ECTS credit equals 30 working hours based on estimates for the average student.	HDU
ECTS grades	The ECTS grading system by the European Commission seeks to make local grades comparable and defines a grading scale based on the class percentile, divided into two subgroups, pass and fail. See also Annex 2, grade conversion.	HDU
Module (Status)	A module is a set of thematically linked courses. There are three different kinds of modules, 1) compulsory (have to be taken by all students), 2) required elective (have to be taken by all students but leave a certain degree of choice between modules), and 3) elective modules. This hierarchy is similar to the one given for <i>course statuses</i> , see above.	HDU
SEU credits	One credit equals 45 working hours, based on the <i>Standards for Establishment of Universities</i> .	KU
Standards for Establishment of Universities	A ministerial ordinance part of the Japanese quality assurance framework for higher education, based on the provisions of the School Education Act of 1947, specifying standards for teacher qualification, curricula, admission and graduation in Japan.	KU
Tutorium	An auxiliary course in support of a main course, e.g. a discussion class in addition to a lecture series.	HDU/KU
Workload	See <i>Credit Points</i> , <i>ECTS credits</i> , <i>SEU credits</i> .	HDU/KU